

中野区教育委員会会議録 平成25年第11回定例会

○開会日 平成25年4月12日(金)

○場 所 中野区教育委員会室

○開 会 午前 10時00分

○閉 会 午前 10時43分

○出席委員

中野区教育委員会委員長	大 島 やよい
中野区教育委員会委員	小 林 福太郎
中野区教育委員会委員	高 木 明 郎
中野区教育委員会教育長	田 辺 裕 子

○欠席委員

中野区教育委員会委員	渡 邊 仁
------------	-------

○出席した関係職員

教育委員会事務局次長	高 橋 信 一
副参事(子ども教育経営担当・知的資産担当)	
	辻 本 将 紀
副参事(学校再編担当)	石 濱 良 行
副参事(学校教育担当)	伊 東 知 秀
指導室長	川 島 隆 宏
副参事(学校・地域連携担当)	濱 口 求
副参事(特別支援教育等連携担当)	黒 田 玲 子
副参事(就学前教育連携担当)	古 川 康 司
副参事(子ども教育施設担当)	伊 藤 正 秀

○担当書記

子ども教育経営分野 片岡和則

子ども教育経営分野 仲谷陽兵

○会議録署名委員

委員長 大島やよい

教育長 田辺裕子

○傍聴者数 3人

○議事日程

〔報告事項〕

(1) 委員長、委員、教育長報告事項

(2) 事務局報告事項

①平成25年度教育管理職異動名簿（指導室長）

②中野区における小中連携教育のあり方について（指導室長）

中野区 教育委員会
第 1 1 回定例会
(平成 2 5 年 4 月 1 2 日)

午前10時00分開会

大島委員長

おはようございます。

教育委員会第11回定例会を開会いたします。

本日の委員の出席状況ですが、渡邊委員が欠席です。

本日の会議録署名委員は、田辺教育長にお願いいたします。

本日の議事日程は、お手元に配付の議事日程表のとおりです。

ここでお諮りをいたします。

本日は株式会社朝日新聞社から、教育委員会の会議を撮影したい旨の申し出がありました。会議を撮影する場合には、教育委員会の承認を得る必要があります。委員長としましては、これを承認したいと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

ご異議ございませんので、会議の撮影を承認することに決定しました。

なお、撮影に当たっては、会議に差し支えのないように行っていただきますようお願いいたします。

また、傍聴の方を撮影する場合には、個別に了解を得てから行っていただきますようお願いいたします。

<配付資料について>

大島委員長

ここで傍聴の方にお知らせいたします。

本日の事務局報告事項の1番目「平成25年度教育管理職異動名簿」及び2番目「中野区における小中連携教育のあり方について」の資料はいずれも区議会への報告前の資料となりますので、後ほど回収させていただくこととします。傍聴の方はご退場の際に、事務局へ資料の返却をお願いいたします。

続きまして、4月1日付で、教育委員会事務局幹部職員の人事異動がございましたので、事務局から報告をお願いします。

教育委員会事務局次長

それでは、4月1日付教育委員会事務局の幹部職員の人事異動につきまして、ご報告させていただきます。恐れ入ります。着席のまま紹介させていただきます。

始めに、教育委員会事務局次長、私、高橋信一でございます。どうぞよろしくお願いたします。

続きまして、教育委員会事務局副参事子ども教育経営担当兼知的資産担当、辻本将紀でございます。

副参事（子ども教育経営担当・知的資産担当）

辻本でございます。よろしくお願いたします。

教育委員会事務局次長

続きまして、教育委員会事務局副参事学校教育担当、伊東知秀でございます。

副参事（学校教育担当）

伊東でございます。よろしくお願いたします。

教育委員会事務局次長

続きまして、教育委員会事務局副参事学校・地域連携担当、濱口求でございます。

副参事（学校・地域連携担当）

濱口でございます。よろしくお願いたします。

教育委員会事務局次長

続きまして、教育委員会事務局副参事就学前教育連携担当、古川康司でございます。

副参事（就学前教育連携担当）

古川でございます。よろしくお願いたします。

教育委員会事務局次長

なお、教育委員会事務局副参事学校再編担当、石濱良行、教育委員会事務局指導室長、川島隆宏、教育委員会事務局副参事特別支援教育等連携担当、黒田玲子、教育委員会事務局副参事子ども教育施設担当、伊藤正秀につきましては、異動はございません。引き続き、よろしくお願いたします。

報告は以上でございます。

<報告事項>

大島委員長

それでは、日程に入ります。

<委員長、委員、教育長報告>

大島委員長

まず、委員長、委員、教育長報告です。

私からは、3月29日の第10回定例会以降の主な委員の活動について、一括して報告します。

4月1日月曜日、区立小中学校長、幼稚園長等辞令伝達式が行われました。私、大島と小林委員、田辺教育長が出席されました。

一括の報告は、以上です。

各委員から以上の報告につきまして、補足、質問、ご発言等ありましたら、お願いします。

私からですが、4月1日、今申し上げましたようなことで、校長先生、園長先生の辞令伝達式が、午前中、行われました。午後、新しく採用された新任の先生方、それから、他の地域から中野区に転任されてきた先生方に対する辞令伝達式が行われました。

私も出席して、激励の言葉と中野区への歓迎の言葉を述べさせていただきました。大変たくさんの先生方がまたことし、中野区の教員として活動されるということの初めの式でございましたので、厳粛な中にも何かエネルギーを大変感じました。

学校によっては新卒の先生がたくさんいらっしゃるというような学校もあるようですので、学校では新しい先生の育成とといいますか、育てていただくようなご指導をまたよろしくお願ひしたいなと思ったところがございます。

私は以上ですが、小林委員、お願いいたします。

小林委員

私も今、委員長のお話のとおり、4月1日に小中学校長、幼稚園長等の辞令伝達式に出席をいたしました。

午後の新任と転任の教諭の式につきましては、所用で失礼をさせていただきました。

いずれにしても、中野区に新しい風を吹き込んで、充実した教育活動を展開していただければというふうに願っております。

以上です。

大島委員長

高木委員、お願いします。

高木委員

特にございません。

大島委員長

田辺教育長。

教育長

特にございませぬ。

大島委員長

では、今の報告につきましたの質問、ご発言はございませぬでしょうか。

では、ほかにご発言がないようでしたら、事務局報告に移ります。

<事務局報告事項>

大島委員長

それでは事務局報告事項の1番目、「平成25年度教育管理職異動名簿」の報告をお願いします。

指導室長

それでは「平成25年度教育管理職異動名簿」についてご報告をさせていただきます。お手元にA4の資料がございますので、ごらんいただければと思います。

まず、幼稚園ですが、かみさぎ幼稚園の園長は上鷲宮小学校の高橋校長が兼務をするという形で、ことしはスタートさせていただきたいと思います。

それから、小学校ですが、4番目、向台小学校、郡吉範校長。中学校の副校長からの昇任という形になります。

また、5番目、北原小学校、武智直貴校長ですが、桃花小学校の副校長からの区内での昇任。

8番目、西中野小学校、杉淵尚校長ですが、台東区教育委員会の統括指導主事からの昇任。

9番目、緑野小学校、宇賀神佳子校長。国分寺市立第十小学校からの転入となります。

また、中学校は1校だけです。南中野中学校、江原賢一校長、新島村立新島中学校からの転入です。

副校長、副園長です。ひがしなかの幼稚園ですが、井上米子副園長、文京区立後楽幼稚園からの昇任となります。

小学校です。3番目、中野本郷小学校、佐々木智津子副校長、江戸川区立西小岩小学校からの昇任。

4番目、江古田小学校、大野寿久副校長、三宅村立三宅小学校からの転入です。

6番目、新井小学校、伊波喜一副校長、昭島市立拝島第三小学校からの転入。

7番目、多田小学校、片寄玲子副校長、文京区立湯島小学校からの転入。

8番目、江原小学校、幅健司副校長、大島出張所指導主事からの昇任。

中学校です。第三中学校、木村知広副校長、中野区立中野中学校からの昇任となります。

副園長、副校長については以上です。

事務局のほうで、指導主事の転入がございました。2番目、東條貴史指導主事、江東区教育委員会からの転入です。

もう1人、3番目、鵜飼康成指導主事です。中野区立第二中学校からの昇任という形になります。

主なものは以上です。

今回の特徴なのですが、島嶼から、新島、三宅島、それから大島という形で、3名の方が転入ということが少し特徴的なことかなというふうに思います。

以上でございます。

大島委員長

ただいまの報告につきまして、質問、ご発言等ございますでしょうか。

小林委員

かみさぎ幼稚園については、兼任ということでございますが、この点については何か配慮事項があれば、改めてお聞かせいただければと思います。

指導室長

かみさぎ幼稚園は、今、ご案内のように、兼任となりますので、副園長の仕事がふえる形になるかというふうに思います。

その副園長の仕事をサポートするために、事務職と、それから幼稚園の教諭職というものを区独自として採用しまして、副園長が子どもたちを見る部分と、経営の部分をサポートできるような体制を、年間を通してとる形になります。

小林委員

再任用校長が数としてふえてきているというか、そういう状況かと思いますが、これについて、何か特に問題があるかどうか、ちょっとお聞かせいただければと思います。

指導室長

まず、再任用校長がふえている背景なのですが、東京都全体で副校長の数が足りないという状況がありまして、一定割合で区市で努力をして再任用の校長をふやしてくださいというような要請があります。

どの校長も、非常によく、精力的に、まだまだ10年ぐらい働けるのかなと思うぐらい経営をされていますので、問題点はないというふうに考えております。

大島委員長

ほかにございますでしょうか。

私から。もちろん、この人事の件というのは東京都のほうで決めることで、中野区の意向でどうこうということではないので、コメントできるようなことではないと思うのですが、再任用でやってくださっている方も、私たちもなじみのある方たちで、大変実力もエネルギーもおありになるということをよくわかっておりますので、ある意味で安心感があります。

新しくほかの地域から来られた先生も、今の指導室長のお話にもありましたように、島のほうから移ってこられた方も多いようで、全然環境が違うところで教育活動をされた方が、また中野に来てくださるというのも、大変いろいろな意味で刺激にもなるし、参考になるお話も聞けたり、大変いいことではないかなという、個人的な感想を持っております。

また、そういうところで教育活動をされた方の経験なども、中野区に取り入れられると、大変いいのではないかというような気がしております。

ほかには、よろしいでしょうか。

高木委員

教育管理職の異動については、こちらでいいのですが、別件で、関連して、この4月から各区立の学校には、係長級の事務職員を置いて、副校長先生の、特に地域連携の仕事を助けていくような形になっていると思うのです。

それに関しては、校長あるいは副校長先生の名代というとおかしいのですが、かわる形として、地域とがっぷり四つに組んで、学校、地域、家庭の連携を進めていこうという、教育委員会の大きな目標に沿っていると思うのです。

できれば、どんな方が行っているのかというのが、私の認識では副校長先生に準じるといいですか、なので、できましたら名簿などがあつたら、ちょっと見たいなとは思いますが、そういうことは可能なのでしょうか。

教育委員会事務局次長

それについては、今回は管理職という形で、うちのほうでいっているものは係長職でございます。しかしながら、教育を担う人間という部分がございますので、それについては後日、名簿のほうでご説明させていただきたいと思っております。

高木委員

4月8日に小学校の入学式、9日に中学校の入学式で、授業もやっと始まって、今、特に校長先生、副校長先生がかわったところは、安定飛行に今、移りつつあるのかなということで、クラスがえなどもあったりして、4月中はちょっとバタバタすると思うのですが、一方でやはり地域と連携といいますと、年間の行事の中で、この4月に決めていかないといけないですね。

私どもの短大も、実は来週ぐらいに各小学校に行って、平成25年度の児童英語の日程の打ち合わせをしなければならないのです。ふと考えて、とりあえず校長先生あてに行くのですが、従来、副校長先生が担っていたことが多いのですが、これは、では、今度は事務職員の方なのか。それは各学校でよく、引き継ぎといいますか、分担ができたらいを見計らっていたので、4月中旬。遅くなると、日程調整が難しいので、そういった話が多分、いろいろな形で出てくると思うのです。

行かれた係長級の方は多分、急に現場に行って、苦勞していると思いますので、ぜひ事務局のほうでも、サポートといいますか、連携のほうをよろしくお願ひしたいと思います。

大島委員長

新しく始めた試みでございますので、本当に我々も、どんなふうになるのかなという実態を気にしているところでもありますし、また、今後、そういうことのご報告もいただけたらなというふうに思っております。

ほかにご質問、ご発言、よろしいでしょうか。

それでは、事務局報告事項の2番目「中野区における小中連携教育のあり方について」の報告をお願いします。

指導室長

「中野区における小中連携教育のあり方について」は、もう昨年度も、この委員会で報告をさせていただいているところです。一部、小さな調整、修正がありましたので、その部分について報告をさせていただきたいと思います。

まず、一番最後から2番目「移行期における小中連携教育グループ分け」について、ご報告をさせていただきます。

このグループ分けにつきましては、再編完了後の組み合わせを基本とするということで決めさせていただいたということは前回もご報告させていただいたところなのですが、どうしても小学校から二つの中学校に進学をする小学校が3校ほどあります。

桃園第二小学校と平和の森小学校、そしてもう1校、白桜小と、3校あるのですが、これについては小中連携を進めていく上で、二つに分かれるということがどうしても避けられないというところで、いろいろな議論がこれまでもありました。

中学校の校長から、逆に、きちっとこういう形で決めてもらったほうが、小中連携がしやすいと。小中連携の中身は、どの学校からどの学校へ進学するというのではなくて、中1ギャップの解消、中学校の生活をきちんと早目に理解できるということが大きな目的なので、必ずしも進学する中学校での体験等がなくてもいいだろうということでご意見をいただいておりますので、一応、この形で進めていきたいなと思います。

とはいえ、今年度からスタートする中で、微調整をする必要が出てくるかということがありましたので、アスタリスクの2番目に「2校の中学校に児童が進学することになる小学校の組み合わせについては、状況を見ながら検討することもある」ということで示させていただきました。それが1点です。

それから、もう1点、1枚手前のページになりますが、今年度から7年間かけて、中野区としての小中連携教育を進めていく形になるのですが、この中で、文言のところでは「乗り入れ指導」という言葉がどの領域にも入ってくるかと思います。これは今まで「出前授業」と言いまして、中学校の先生が授業をしに小学校に来るとするのは「出前」という表現を使っていたのですが、中教審等の文書を見ますと、「乗り入れ指導」という言葉になっているので、そういう形に訂正をさせていただきます。

それから、進め方としては「移行期」「充実期」「発展期」ということで、おおむね2年、2年、3年というところで進めていきたいなというふうに思っています。最終的には、教育課程の編成まで踏み込めるような形にしていくのが目標となっております。

一つの特徴としては、区全体の取り組みは、最初は面積を小さくしてやるかと思いますが、だんだんと区全体の取り組みをふやして行って、各学校独自の取り組みについては、最初は、軌道に乗るまではその部分もウエートは大きくしていきますが、中野区全体としての小中連携教育を進めていくという方向にシフトしていきたいなというふうに考えております。

改正点も含めて、以上です。

それから、もう1点、追加なのですが、このペーパーについては使っていないのですが、1月の地域での教育委員会のときに、スライドで、小中連携教育について委員の先生方にご説明したかと思うのですが、小学校のPTA連合会の会長さん、それから中学校PTA

連合会の会長さんの集まりで、それを使って説明をしてきました。

そうしましたら、非常によくわかったというご意見をいただいたのと、あと中1ギャップの解消については、何もそこまで丁寧にする必要があるのかという。要するに、忍耐力だとか、そういう困難に立ち向かうような力をつけるためには、あまり階段をスモールステップにすることはよくないのではないかというようなご意見もいただきました。

ただ、私のほうとしては、中学校生活での不適應がこれだけふえてきている現状がある中で、そこにまずたどり着くことが大切であって、そこまで上がってこれないからだめだというような、そういうことはちょっと教育委員会としては考えていないので、まず中学校の土俵に上げていくというところに力を使いたいという説明をしておきました。

以上でございます。

大島委員長

ただいまの報告につきまして、質問、ご発言等、ありますでしょうか。

小林委員

済みません、私は新たに任用されましたので、ちょっと今までの経過が十分にわかっておりませんので、申しわけございませんが、この連携教育を進めていく際に、やはり小学校と中学校のそれぞれの違いとか、それぞれのよさとかというのがあると思うのですけれども、区内の先生方の捉え方というのでしょうか、率直なところ、どんな感じかをまずお聞かせいただきたいと思います。

指導室長

まず、昨年度6月から12月にかけて委員会を開催しまして、現場の校長、副校長を中心にご意見をいただいています。

小中連携教育、やはり負担が大きいかなというようなところのご意見も、最初はありました。その効果ももちろんそうなのですが、やり切れるかというような不安のご発言もありました。事務局の案をもとに検討していった段階では、少しゆったりとしたスピードでやっていこうということで、例えば平成25年度は、区共通の取り組みとしてはオープンキャンパスなのです。そこからスタートしていく。

それから、今の委員のお話にありましたように、文化が違いますので、その共通理解をしていかなければいけないということで、少し進んでいきますと、小教研、中教研の合同開催のほうにも少しシフトしていく形で、やはり教員としての共通した教育観というのをある程度、持って行かないと、なかなか小中連携は難しいだろうというところがありま

すので、そのあたりを含めてやっていきたいと。

それから、小中連携、直接ではないのですが、教育委員会の平成25年度の施策として、公務支援システムというのを導入するということがあるのですが、それは教員の事務的な負担を軽減するという大きな目標がありますので、そういうところで先生方の負担を少し軽減することで、本来の業務である教育活動に力を使っていたきたいというふうなことを考えています。

小林委員

この中で、従来、「出前授業」と言っていたもので、「乗り入れ指導」を移行期の中で行っていこうということなのですが、実際に校地が離れている状況の中で、これをどのように進めていくべきなのか。これは大きな一つポイントになると思うのですが、その点はいかがでしょうか。

指導室長

中学校の先生の持ち時数との関係が出てくるかと思います。全ての教科で、例えば英語だとか数学だとか、いっぱいいっぱいなところもありますので、そこについて難しければ、少し余裕のある教科のところから始めていくということが必要だと思いますし、それから、教科の系統性を考えたときに、今度の予算措置にもかかわってくるのですが、その部分を補完できますような、そういう仕組みを今後、検討していくというところで、現在のところはまとまっております。

小林委員

先ほどの教育管理職の異動の報告の中にも、例えば、小学校籍の教員が中学校にとか、その逆の場合もあるわけで、要するに人事交流ですね。これを今後さらに、いろいろな形で無理なく進めていくのも、一つの策ではないかと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

指導室長

教員レベルでの人事交流もなくはないのですが、そこについてはまだ検討を十分にしておりませんので、今の段階ではちょっとお答えできるところはございません。

大島委員長

小林委員は、委員になられたばかりで、我々、前年度から引き続き、小中連携教育のあり方というのをずっと議論してきたものですから、大変申しわけございませんでした。

少しご説明をする機会が、またこれからもあると思いますけれども。

ただ、小林委員はもう他区で小中連携教育を実践していらっしゃる専門家とっていいような方でございますので、むしろ、我々、教えるなどおこがましい、先生からまたいろいろ教わりたいと思っておりますので。

小林委員

学校施設の関係で、この小学校と中学校、連携する上で、これまで何か講じてきた策みたいなものはありますか。施設上のことですね。特に、まだそこまではあれですかね。

一応、始めに施設ありきというのはおかしな話ですので、具体的にこういう指導をしていく上ではこういうことが必要なのだということが今後出てくると思うのです。

教育委員会事務局次長

これは始まったばかりでございます。一つには、一貫校という施設的な面からやっていくものですが、中野区としては連携という形で、施設的なものより、まずはソフトウェアからということになります。

ただ、これが発展段階になったときには、やはりそういったものも出てくるかと思いません。今後、この進め方を見ながら、そういった面も考えていく必要があるというふうに考えています。

教育長

今回、この形でまとめさせていただいてはいますが、各学校から代表というわけはありませんが、教員とか集まってもらって、小中連携の協議会というような組織もつくって、中核になるような教員がこの小中連携を進めていくというような取り組みもしていたり、引き続き、検討会などを設けて議論していくというようなことも考えています。その中でこの内容をバージョンアップしていくとか、あるいは、スピードを速めるとか緩めるといったことも含めて対応していきたいと思っております。今、小林委員がおっしゃった、施設的な面で何か必要があればということについても、まだこれがフィックスされたものでなくて、十分検討の余地があるかというふうに思っています。

それだけでなく、この一番後ろにあります小中連携の組み合わせなのですが、今まで、必ずしも小学校と中学校がこのグループの中で密接な関係を持ってやっていた組み合わせもあります。ほかの中学校とほかの小学校がかなり連携しているというようなケースもあって、今回、この組み合わせを示させていただきましたので、中野区の教育委員会がこういう取り組みをしていて、このグループの中で、協力関係でやっていくの

だということを、地域の方にもご説明する必要があるかと思っています。今までなかなか教育活動について、町会ですとか民生児童委員の方とかにはお話ししたことがないのですが、その辺もちょっと丁寧にやっていきたいなということで、この組み合わせにご協力いただける地域の関係もつくっていききたいなというふうに思っています。

大島委員長

私からですけれども、今まではこの小中連携教育、どういう考え方、どういう理念でとか、どういうことを目標にしましょうとか、そういう段階から、タイムスケジュールも一応、こういうふうにつくられたわけですが、今、教育長のお話で、さらにもっと具体的なことで、今の教員の方の協議会というお話が出ましたし、もっと、今までは、私なんか、具体的なイメージというのがいま一つ、まだできていなかったのですが、それこそ、例えば毎週何曜日にどういうことをやるとか、そういうような具体的な行動をいよいよ詰めて考えていく時期、これからスタートするという段階になったのかなという感じがしております。

具体的に、では何日に何をやるみたいなの、そういう非常に日常レベルにまで下ってきた段階での計画というのが、これから我々のほうでもつくっていくようになるのだなということで、頑張ってやっていかなければなど。

それから、今、教育長がおっしゃった、地域の方との協力関係というようなものも、また新たに構築しなければいけないような地域もあると思いますし、これからいよいよ進めていくのだなというような、気持ちを新たにしております。

ほかにはよろしいですか。

高木委員

7ページの「移行期における小中連携教育グループ分け」は、再編終了後の組み合わせを考えると、これが一番妥当なのかなとは思っています。

ここは修正があっても、やはり白桜小、平和の森小は、現時点では再編後も二つの中学校に進む形になりますので、そこの一定の配慮は必要なかなと思っております。

ただ、近いとか遠いとかいうことで言いますと、地方に行けばもっと距離があって連携している学校もありますので、グルーピングをしっかりと、そこの学校と連携してくださいよと、出すことはすごく重要なのかなと。

ただ、これをもとに地域に説明していったときに、再編後のイメージが、我々は頭の中にあります、一般の区民の方とか地域の方はまだないので、ですからやはり、できれば

ここに、再編後の九つの統合新校が二つ入ったイメージ、それに対する小学校の組み合わせをやはり提示して、中野区の教育委員会として、九つの中学校区に再編しますよと。これを基本にして、いろいろな教育活動をやっていきますよ、地域との連携もやっていきますよ、というのを出していかないと、何か、ちょっとわかりにくいのかなと思います。

あと、全然別件なのですが、小中連携だけではなくて、例えば小学校同士、中学校同士の連携というか、ブロックに関しても、そろそろタイムスケジュールといいますか、つけていかないといけないと思うのです。進んでいきますと、連合運動会とか、既にちょっとやりにくくなっているところもあって、毎回、その時期になると、「そろそろ手をつけなくてはね」と校長先生とお話をして、ちょっとそのままになっていますので、まだ実際に統合が、後期が始まるまではちょっとありますが、そろそろそれも検討して、提示していかないといけないのかなと。

やはり、伝統的なブロックを、特に初期はいじくることになりますので、そこらへんはよく、先生方やPの方のご意見も聞き、周知しながら進めていかないと、うまくないなと思います。

大島委員長

今、高木委員のお話にもあったようなことですが、区民の方に、この我々の考えている連携の中身の周知、PRといいますか、これをしていかなければいけないなというふうに思っております。

その辺もなるべくわかりやすく、そして、皆さんにわかっていただけるようなお知らせの方法といいますか、我々も知恵を絞りたいと思っています。

ほかには。

高木委員

あと、先ほど、指導室長から報告がありました、PTA連合会の方の意見で、そこまで丁寧にやらなくてもというのがあったかと思うのですが、ただ、今、大学、短期大学では、やはり全入時代になりまして、かなり学力的に多様な方が入ってきております。

私どもの短大でいいますと、先日、英語のプレースメントテストをやったのですが、英検2級を超える、準1級に近い層から、中学校レベル——ちょっとお恥ずかしいのですが、の三単現が危うい学生も、正直、入ってきております。

そうしますと、どうするかというと、入学の段階で、英語の科目は、そのプレースメントテストを軸にして、習熟度別にして、特にやはり、学習に困難がある学生はリメディア

ル教育、補習教育をやっていく。これは私どもではなくて、かなり多くの大学、短大がやっているところです。

日本の小中学校は、落第がないのは平等でいいのですけれども、実態としてやはり、学び残しがあって入ってくる生徒がいますので、そこに対するケアはやっていかないと、結局、わからないまま3年間過ぎますから。

ただ、そのところは、説明が難しいですね。学び残しの生徒がいますと、あまり大きな声ではちょっと言いづらい。ただ、現実問題としていますので、そういう状況もやはり、うまくPTA連合会の方にもご説明して、ご理解いただくようにするという必要があるのかなと思います。

私はやはり、そういった連携教育の中で、学習の課題を消化するというのは非常に大きな意義だと思っております。

教育長

教育活動の内容ということではないですけれども、先ほど、高木委員がおっしゃった、新しい組み合わせが、この中で示していますけれども、一方で、学校再編計画（第2次）も3月に決定はさせていただきましたが、これからもっともっと周知をしていかなければいけませんので、この組み合わせを、先ほど言った9校になったイメージも含めて、この組み合わせを説明する中で、学校再編計画についても一緒にあわせて区民の理解をいただくという、両面で努力をしていく必要があるかなというふうに思っています。

大島委員長

そのほかには。

小林委員

これは教育委員会として自戒しなければいけないことだと思うのですが、こういう連携教育、ほかのことも、学校再編も全てそうなのですが、何のために行うかといった場合に、やはり子どもたちの健やかな成長というか、中1ギャップの解消もそのうちの一つだと思いますけれども、その目的をやはりしっかりと見据えて、そのために連携教育をやるのだと。ですから、連携教育はあくまでも一方法であるということですよ。

ですから、事務局の方々にもその辺のところを、連携教育をやること自体が目的ではなくて、目的はあくまでも子どもたちの健やかな成長であって、これは一つの方法だということ。それを教員にも、また、私たち教育委員会全体も、その考え方をしっかりと押さえておかなければいけないかなというふうに思っています。

以上です。

大島委員長

ほかに。

高木委員

このスケジュールを見る限りでは、各組み合わせが平行、並行で、同じようにというとおかしいのですが、一括して進めるような形になっていると思うのですけれども、やり方によっては、その特定のグループを少しモデルプランにしてやっていくということもあると思うのです。以前、ちらっとそんな話も出たかなと思うのです。

学校再編が終わっても、組み合わせが変わらない組み合わせが幾つかあると思うのです。例えば、七中校区に関していうと、江原小、江古田小と組み合わせも全く変わりませんし、例えば南中野中は統合校になりますが、もとのところとの組み合わせは変わらないので、例えばそれで、モデル校とかモデルグループみたいなものをするというのは、今回の案ではないのでしょうか。

指導室長

済みません。説明をし忘れ、申しわけありません。今、高木委員がお話になった、現在では整合性がとれているところはいくつもあります。

平成25年度、平成26年度で七中学区、第七中学校と江古田小学校と江原小学校の3校は、学校教育向上事業として、小中連携教育を研究テーマとして取り上げて、先行的な取り組みをするという形になっています。

その後、モデル校をふやしていくというような形で進めていきたいなど。第二期目のモデル校はまだ決定していませんが、そういう形で、少し先を行ってもらって、その成果や課題などをクリアしながら、このタイムスケジュールを進めていきたいというふうに考えております。

高木委員

七中はたしか、今年度まで、防災で研究をやる予定なので、プラスアルファでやるという理解でよろしいでしょうか。

指導室長

そのとおりでありまして、第七中学校に関しては、二つ研究をされるということで、校長は大変熱心に挑戦をしていただけるということです。当然、小中連携の中にも防災を入れるということも可能かなというふうに思いますので、その辺は学校のほうにお任せをし

たいというふうに考えております。

大島委員長

ほかにはございませんでしょうか。

今、小林委員からのお話にもあったように、目的は子どもたちのためにということでございます。もちろん、それはそうなのですが、何か、この連携教育の事務的なことを進めることが我々の目的になってしまつては本末転倒ですので、改めて、自戒しながら進めたいと思ったところでございます。

そのほかには、ございませんでしょうか。

(発言する者なし)

大島委員

では、事務局から、ほかの報告事項はございますか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

大島委員長

それでは、以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これをもちまして、教育委員会第11回定例会を閉じます。

午前10時43分閉会